

犬達のしつけを考える

柴 稠 (NSC 会長)

約 2 万年前に人との共存を選択し、人々に貢献する領域を膨らませながら堅固な信頼関係を築き上げ、良きパートナーとして、潤いと安らぎを提供し続ける犬達。しかし私達は彼等に何をしてあげたのでしょうか。「どれ程のこともしてあげられなかった」はずです。

欧州では公共の乗物に、ごく自然に犬が乗ってきます。日本国では盲導犬などが近來にいたってようやく乗車出来るようになりましたが、この差は何なのでしょう。畜犬先進国と畜犬後進国の差にほかなりませんが、原因は犬達に「どれ程のこともしてあげられなかった」私達の意識レベルの低さにあり、それは日本国の「事なかれ主義」に転嫁すべきものでもありません。

仔犬は血と骨に知能と能力を一杯詰め込んで生まれてきます。成長に伴い周囲の状況を学習し順応しながら、その知能と能力を限りなく広げることの可能な生き物です。周囲である私達が受け入れ態勢を整え、心待ちしている彼等に、可愛がるだけで学習に必要な資料などの情報提供を怠ることこそ、「どれ程のこともしてあげられなかった」と思うのですが如何がでしょうか。

人の命を預かる盲導犬、聴導犬が、「仕方なしに仕事をする」のでは危険な場面が想定されます。日本の盲導犬は昭和 30 年代にシェパードで訓練が始められ、ドーベルマンに移行し、ラブラドル・レトリバーに定着しました。当初は体罰を伴う訓練もあったとのことですが、現在では盲導犬先進国の英国に見習い、欧州で広く採用されている訓練により信頼性のある作業内容を習得し、主人のために楽しそうに任務についている様です。盲導犬の訓練と一般犬の躾とは目的が違いますので訓練メニューが異なります。しかし、習性と知能を利用しながら意図する行動を引き出す作業ですから、基本的には全く同じと言えます。

欧州には人が訓練を学ぶ施設はありますが、訓

練を職業とする人は存在しません。オーナーが指導手となり、犬の目の高さで手渡し感覚の教え方が一般的のようです。愛情の籠もった訓練により、犬から得る信頼度と絆は深まり、リード(引き紐)一本でコントロール出来るまでに上達するのだそうです。

ここで訓練実例を簡単に列記しますので、参考にしてください。

【仔犬時のトイレのしつけ】

ことの終わった行為に叱責は無意味です。叱られることで排便がイケナイと理解し隠れてする様になりますので、しようとするタイミングをみて指定場所に連れて行き、済んだ後はオーバーに褒めてあげます。褒められるのは大好きですから短期間で身に付きます。

【室内でテーブルに前肢を乗せた時】

「イケナイ」と言ってテーブルを平手で叩くより、コインを 30 個位入れた音のするミニペットボトルをそっと投げる。音に驚き前肢を引きますので、褒めてあげる事により矯正出来ます。音のするものを投げるのは天罰と理解させるためです。

【脚側歩行の訓練】

脚側歩行は訓練の基本です。散歩時の事故防止、ドッグショーの歩様審査、効率的な引き運動にもなります。比較的簡単に覚えますので、散歩時に教えてあげてください。

まず、リードを左手小指を下にして握り、肘をたたみ胸の高さとします。犬の頸から左手までの長さはハンドラーコントロール範囲の 1.2 メートルとします。(この距離以内をコントロールディスタンスと言います) 「マエ」(GO)でスタートしますが、犬は勝手にリード一杯前に出ようとし、引っ張りますので、「イケナイ」(NO)と言ってリードを引きショックを与えます。これは犬には申し訳ない事ですが、勝手に引っ張った天罰と理解させ

るためです。

頸部にショックを受けた犬はハンドラーの足許に戻って来ます。腰をかがめ「ヨシ」(GOOD)を数回言いながらオーバーに褒め、優しく撫でてあげます。ここで「誰に叱られたのかなー主人は怒っていないからやっぱり天罰かー」と状況を判断するようになります。

次に、ハンドラー自身の左腿を左手で叩き、「ツケ」(HEEL)と言いながら左脚側につけ「マエ」(GO)で歩かせます。呑み込むまでには何回か失敗を重ねることもありますが、決して感情的に叱らないで根気よく繰り返し教えてください。訓練個体一生の財産になりますし、慣れればリードなしでも見る人を魅了する脚側歩行が演じられます。

なお、散歩時を利用して訓練するときは、自由散歩と脚側歩行訓練と区別してあげるべきで、例えばリードを一杯伸ばしハンドラーの左手を下げたときは自由散歩。リードをコントロールディスタンスにし、「ツケ」(HEEL)と言った時から脚側歩行であること覚えさせ、リードは常に緩くして張らないよう心がけたいものです。

【ポーズの訓練】

「マテ」(WAIT)若しくは(STAY)の指示で静止ポーズをとります。WAITは見張る、STAYは立てですが、脚側歩行から「トマレ」(STOP)の後リード軽く引いて、「マテ」(WAIT)若しくは(STAY)の指示で静止し、ポーズをとるように訓練します。(「マテ」の訓練はジャーキーなどの褒美を上げるのは効果があります)

【偶然の利用】

犬の遊びやなにげない行動を指示によって演ずるのが訓練の原点です。このなかから「伏せ」を取り上げてみます。

少しハードな散歩の後に、前肢を伸ばし「伏せ」に似たポーズをすることがあります。これを利用するのですが、立たせて「伏せ」(DOWN)と指示します。指示されなくても自然に「伏せ」の状態になりますが、撫ぜながら褒めてあげ、この作業を繰り返すことにより、褒められる快感に「伏せ」が出来上がります。

【知っておきたいこと、守りたいこと】

(1)習性の利用

総ての犬は右側を守る習性をもっています。ドッグショーでリードを左手で持ち時計逆回りを採用したのは、ハンドラーが右側につくことで審査犬は安心出来るからで、触審にもハンドラーは右、審査員は左側となります。

(2)取引方法は

犬にとって群れのリーダーに褒められるのは大きな喜びです。オーナーは群れのリーダーであると彼等は理解しておりますので、経済取引(俗に餌でつる)より愛情取引(褒めてあげる)の方が効果的です。(ドッグショーで静止ポーズ時の経済取引は欧州でもよく見られます。欲しいときなどは何とも言えない可愛い表情をするからだそうです)

(3)罰は天罰でタイミングよく

オーナーは「叱らない」で「褒める」に徹します。「罰は現行犯で、矯正はその直前」このタイミングが最も大切で、事後叱責は恐怖心を助長させるばかりで躰には逆効果となります。

以上しつつけの実務について一つの方法を列記してみました。日本スピツツは神経質が欠点であるならば、その裏にある繊細な頭脳という長所があります。より楽しく共に過ごすために優しく教えてあげてください。

こんな言葉もありました。

「訓練されていようがいまいが、やはり自分の犬がいちばんである。」

キャロル・リア・ベンジャミン

